

いしかれん だより

第59号
2017. 3石川県精神障害者家族会連合会
〒920-820 金沢市鞍月東2丁目6番地
石川県こころの健康センター内
TEL (076)238-5761 FAX (076)238-5762
MAIL ishikaren@outlook.jp

✿ 障害者差別解消法をどう活用するか

精神の障害に対する偏見や差別、人権侵害は、障害者権利条約や障害者差別解消法をもって、解消するわけではありません。他障害との格差は多く残っており、一つ一つ差別解消に努めていく必要があります。交通運賃割引制度、福祉医療（医療費助成）制度、精神障害者相談員制度の法制化などにみられる障害者間格差ともいえる精神障害者を障害福祉サービスの対象から除外することは、法制度の理念や目的に反しています。

1. 日本国憲法 第14条

すべての国民は、法の下に平等であって、・・・

2. 障害者の権利に関する条約 第二条

「障害に基づく差別」とは、障害に基づくあらゆる区別、排除又は制限であって、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のあらゆる分野において、他の者との平等を基礎としてすべての人権及び基本的自由を認識し、享有し、又は行使することを害し、又は妨げる目的又は効果を有するものをいう。障害に基づく差別には、あらゆる形態の差別（合理的配慮の否定を含む。）を含む。

同 条 約 第四条

- (b) 障害者に対する差別となる既存の法律、規則、慣習及び慣行を修正し、又は廃止するためのすべての適当な措置（立法を含む。）をとること。
- (d) この条約と両立しないいかなる行為又は慣行も差し控えること。また、公の当局及び機関がこの条約に従って行動を確保すること。

3. 障害者基本法 第一条

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するため、・・・

4. 障害者差別解消法 第一条

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、・・・共生する社会の実現に資することを目的とする。

障害者差別解消法施行を機会に石家連から地域での生活の場面、雇用の場面、医療の場面等において、精神障がいに対するさまざまな差別の問題を提起して、改善を求める声を上げていくことが大切です。家族と本人はもちろんですが、精神・身体・知的障害分野の関係者の方々にも現状を正しく把握していただくことが重要であります。今こそ、みんなで声を上げていくことが大切です。一人でも多くの人達に私たちの思いや活動を知って頂くと共に、精神障がい者へのご支援とご協力をお願い申し上げる次第です。

（石家連会長 中谷賢宗）

講演会報告 01 ○○○○○○○○○○○○ 主眼点

講演 「統合失調症：治療や対応について」 主催 金沢市精神障害者家族会連合会

講師 金沢医科大学病院 神経科精神科

とき 平成29年2月5日(日)

精神科医 川崎康弘教授

ところ 金沢市松ヶ枝福祉館

川崎先生のご講演を聞いていて、「精神疾患からのリカバリーは、単に疾患そのものからの回復を意味しているのではなく、人が精神疾患からもたらされる破局的な影響を越えて成長するにつれ、その人生の新しい意味と目的を發展させることである」という W. Anthony 先生の言葉が心にとまりました。そして、現実を達観し、前向きに生きる他の意味を見い出すということはなかなかできないことであるとも言われました（それは癌患者にも通じる）。私も本当にそうだと思います。ではどうすれば良いのでしょうか？

障害を持つ人に力（パワー）をつけさせるのではなく、本人がすでに持っている力を正に發揮できる環境づくりを本人と一緒にすることがエンパワメントなら、それは家族だけの支援ではできないことです。ピアサポート（仲間同士の助け合い）、当事者研究（べてるの家で行われている）、また家族の方から質問にもありましたようにアウトリーチという他職種の方々の支援、医療機関からの支援が大切になってきます。そして、これらの治療の入り口や治療の過程も多様であり、当事者が自分の意思で自由に選択できること、価値も多様であり当事者同士が分かち合えることが大切です。また当事者と治療者（家族も含めて）が等価であり、当事者は病気で治療者は健常としない、と言われた先生の結びの言葉は大きく心に響きました。とにかく、私達はこのことを忘れたり見逃しているのではないのでしょうか。

7～8年前、作業所のスタッフ研修で浦河べてるの家に出かけた折に感じたことは、皆さんが生き生きとしていらっしゃったことでした。そこでは個人個人が大切にされているからではないだろうかと感じました。当事者研究という形で自分自身の病状を自覚し行動し、支援者の方々とも対等に話し合いをしておられました。表面的には決してまともとは言えない生活でも、失敗も多いけれどもそれをみんなが認め合い許しあい、その中で自分自身の生き方、生きる意味を見いだしておられるからでしょう。過疎地の浦河べてるの家とメンバーを奇異にみていた人々が、今ではべてるの家に見学にこられる人々（年間2000人！）のおかげで、町が潤って喜んでいると言うお話でした。

とてもべてるの家のようなことはできないと箱の中にしまってきたものを、残された私の人生で何ができるかと聞いてみているこの頃です。 （泉の会 喫茶ほんだの森 石田 康子）

石家連と全国1152箇所の家族会（2016年“みんなねっと”調べ）		
むつみ会	輪水会	ひまわり会
みそぎ会	鳴和の里すぎな会	けやきの森
泉の会	ことじ会	ちよに会
くろゆり会	しらぎく会	あけぼの会
 金沢市精神障害者家族連合会 		

講演会報告 02 ○○○○○○○○○○○○ 主眼点

講演 「地域包括ケアシステムについて」

主催 泉の会

講師 岡部病院 院長 精神科医

とき 2017年2月16日(火)

前田 義樹氏

ところ 金沢市泉野福祉健康センター

地域包括ケアシステム

住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようになります。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも地域包括ケアシステムの構築が重要です。人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する市町等、高齢化の進展状況には大きな地域差を生じています。地域包括ケアシステムは保険者である市町や石川県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく必要があります。

精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム

精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療（精神科医療・一般医療）、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域の助け合いが包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がある。このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町や障害福祉・介護事業者が、精神障害の程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、一般医療機関、地域援助事業者、市町などとの重層的な連携による支援体制を構築していくことが必要。

ACT アウトリーチ

1980（昭和55）年に、SteinとTestが包括型地域生活支援のプログラムを発表して以来、ACTは重度精神障害を有する人たちの入院を防ぐ効果が示され続けている。ACTという名称でなくても、このようなアウトリーチ型支援は世界的に行われており、地域での生活継続を支える支援として精神科地域ケアの中で大きな役割を果たしている。日本でも2003（平成15）年に研究事業として千葉県市川市でACT-Jが立ち上げられて以降、20カ所以上でACTが実践されている。

（東京大学大学院 宮本 有紀 准教授）

石家連 — 一人で悩まず、お電話ください。秘密厳守。 —

家族会による相談 ☎ 076-238-5761

◆電話による相談（“家族会による相談希望”とお伝えください）。

[日時] 祝日を除く 毎週月曜日 11:00-14:00

◆直接お会いしての相談（要予約、予約は毎週月曜日をお願いします）。

[日時] 祝日を除く 毎週月曜日 11:00-14:00

[場所] 石川県こころの健康センター内（金沢市鞍月東2-6）

赤い羽根共同
募金助成事業

セ ミ ナ ー 報 告 ○○○○○○○○○○○○ 主 眼 点

講 演 「家族による家族学習会とは」

主 催 全国精神保険福祉会連合会

講 師 家族学習会企画プロジェクト委員会委員

協 力 石家連、NPO法人コンボ

(あいうえお順)

と き 平成29年2月26日(日)

飯塚壽美氏 岡田久美子氏 蔭山正子氏

と ころ 石川県社会福祉会館

佐藤美樹子氏 貫井信夫氏

学習会の目的

- 家族が知りたい情報を提供する：適切な情報をえることで、安心し、自信をもって対応できるようになります。また、そのことが本人にも良い影響を与えます。
- 孤立から連携へ：仲間に出会い話し合うことにより、癒しと安堵感をえることができます。また、仲間の必要性や家族自身の生活を大切にすることの重要性を実感できます。
- 家族力を高める：適切な情報をもとにした学習と話し合いを通じて、家族自身がさまざまな問題に対処し、また働きかける力を高めることができます。

学習会のルール

- ここで聞いた話は外に持ち出さないようにしましょう(守秘義務の厳守)。
- 他の方の意見を批判したり、自分の意見を押しつけることは避けましょう。
- なるべく多くの皆さんの話しが聞けるように一回の発言が長すぎないように注意しましょう。
- 話したくないとき話したくないことは、無理に話す必要はありません。「パス」と言おう。

担当者研修会(次のステップ)

- 担当者研修会は、都道府県連等の主催で行う一日研修会。
- (H28年度開催 北海道・千葉・埼玉・静岡・愛知・大阪・奈良・兵庫・岡山・広島・宮崎…11か所)
- 家族学習会を実施する人(担当者)は担当者研修会を受けることが必須条件。
- 家族学習会を実施するための「家族学習会実施マニュアル」の内容を学ぶ。
- 「家族学習会実施マニュアル」とは、家族学習会の理念・内容・手順などをまとめたもの。
- これに従って実施することで、より効果的な家族学習会が実施できる。
- 担当者研修会を終了した3~5人のチームで家族学習会の実施に向けて準備する。
- ※ 一日研修会(およそ5時間のプログラム)は、家族学習会の実施を予定している、もしくは検討している家族会・団体2ヶ所程度を含む計12人以上の参加がみこめること(補助事業)。

『月刊みんなねっと』 購読のお願い

石家連では家族会の全国組織である「みんなねっと」の活動を支え、更に発展を促す為に『月刊みんなねっと』購読者の拡大活動を行っています。各地域の家族会が購読の勧誘に参りますので、なにとぞご協力の程よろしくお願ひします。賛助会員の種類と年会費(会費に購読料含む)。

個人賛助会費：3,600円/人

団体賛助会費：3,000円/人(2人以上) 特別賛助会費：5,000円/口



精神障がい者とスポーツ(あらまし)

- I. 障がい者スポーツは、まず、「ろう者」のスポーツとして始まりました。1888年にベルリンで「聴覚障害者スポーツクラブ」が結成され、それが1910年に「ドイツろうあ者スポーツ協会」となり、1924年(大正13年)にパリで「第1回世界ろうあ者スポーツ競技大会」が開催されました。そしてこれはその後、「デフリンピック」として開催されてきています。(日体大教授・久保健氏)
- II. デフリンピック:4年に一度行われる、聴覚に障害のある人の国際スポーツ大会であり、夏季大会と冬季大会が開催されています。…主な国内・国際障害者スポーツ大会には、全国障害者スポーツ大会、全国ろうあ者体育大会、ジャパンパラ競技大会、アジアパラ競技大会、スペシャルオリンピックス世界大会、パラリンピック競技大会があります。(障害者白書)
- III. 精神障害者のスポーツが地域活動の一環として支援されるようになったのは、早い国で1990年代、ほとんどの国において2000年代以降であるという世界的な傾向が明らかとなった。精神障害者スポーツは、近年、地域生活が保障される社会において文化活動として推進されるようになったといっても過言ではない。(桐蔭横浜大・田中暢子氏)
- IV. (2001)平成13年度から、それまで別々に開催されていた身体に障害のある人と知的障害のある人の全国スポーツ大会が統合され、「全国障害者スポーツ大会」(石川県障害者スポーツ大会)として開催されています。
(2008)平成20年度(第8回)から、精神障害者のバレーボール競技が正式種目に加わり、全国の身体、知的、精神に障害のある方々が一堂に会して開催される大会となっています。(白書)
- V. (2007)平成19年 大阪高槻フットサルチーム「ゴッデス」本格始動。
(2008)平成20年 ガンバ大阪は、日本で初めての精神障がい者サッカー教室「Gスカンピオアカデミア」を実施。同年ガンバ大阪は、精神障がい者フットサルチーム大会「ガンバ大阪スカンピオカップ2008」を開催した。
- VI. (2011)平成23年8月「スポーツ基本法」成立
(2012)平成24年3月「スポーツ基本計画」策定
(2014)平成26年度より、公益財団法人日本障害者スポーツ協会への補助や全国障害者スポーツ大会開催事業といったスポーツ振興の観点が強い障害者スポーツに関する事業を厚生労働省から文部科学省に移管し、文部科学省において、障害者スポーツの競技力向上と裾野の拡大の両面から、障害者スポーツの推進に取り組んでいる。(白書。注意=障害のある人のリハビリテーションの一環として行う事業については、引き続き厚生労働省。)
- VII. (2011)平成23年3月 日本の精神障がい者フットサルチーム、イタリアに遠征し親善試合を行った。
(2013)平成25年10月5日 第1回精神障がい者スポーツ国際シンポジウム(東京)。
8ヶ国の参加:日本、イタリア、イングランド、デンマーク、ドイツ、アルゼンチン、ペルー、韓国。「精神障がい者スポーツ東京宣言2013」採択。
(2013)平成25年10月7日 第1回精神障がい者スポーツ国際会議(東京)
「精神障害者フットボール国際ネットワーク」の構築を目指す。
(2016)平成28年2月 第1回精神障がい者サッカー(フットサル)世界大会(大阪)
パラリンピックのような競技大会ではなく、親善大会とする。(日本精神保健福祉連盟・大西

守氏)

VIII. 「共通の願い」を実現させよう。

“障がい者のスポーツは、まず、「ろう者」のスポーツとして始まりました”(久保健氏)。

(1924)大正13年です。その頃の、日本の精神の障がい者はどうしていたのでしょうか。「1924年には英国皇太子を迎えるにあたり、危険であるとの理由から県立鹿児島保養院が設立され…」(広田伊蘇夫氏)、収容されたり、監置されたり、収容も監置もされなかったり(65,524名)でした。

しかし、「20世紀の精神保健政策は負の遺産と言われ続けるなか、改めてこれからの精神保健領域における医療と福祉のあり方がとわれる時代を迎えたのである」(白書)。歴史的な幕が明いたのは、(2007)平成19年9月28日、日本政府を代表して、当時の高村正彦外務大臣がニューヨーク国連本部にて「障害者の権利に関する条約」(2014年1月20日公布)に署名したその時であったと言ってもいいのではないのでしょうか。

IX. (2020)平成32年 東京オリンピック・パラリンピック開催

※ すべての障がい者が享受できるスポーツにおいては、競技スポーツもあってよい、もっと多様な楽しみ方を求めるスポーツもあってよい、既存のスポーツを障がい者が工夫してやるのもよい、障がい者にアダプテッドしたオルタナティブなスポーツもあってよい、そして真にインクルーシブなスポーツの追求もあってよいというように、〈あれか—これか〉ではなく、〈あれも—これも〉と多重的・多層的に取り組まれる中で、少しずつ、さまざまな実質と未来展望が創りあげられていくことが期待されます。(久保健氏)

※ フットサルってどんなスポーツ？基本的にサッカーと同じようにコート両端にゴールを置き、相手のゴールにボールを入れたら得点が入るというルールです。サッカーボールに比べて、フットサルのボールは小さくて重いものを使用します。また、バウンドしにくい性質を持っています。サッカーではボールを足元で止める難しさがありますが、それに比べて、フットサルはボールが弾まないため平面でプレイすることが可能です。こうしたことが、他のスポーツよりも楽しみやすくしているのです。また、プレイ選手は5人で交代要員は7人。いつでも自由に交代することができるのです。

フットサルは言葉を交さなくても、ボールでコミュニケーションをとることが可能です。ボールのパスが自然と会話のような役割を果たすので、フットサルをプレイするだけでも人間関係を作る力を身につけることが出来るのです。

フットサルには、人間関係、自己管理能力、見通しを立てる力、勝敗の喜びと悔しさ、そして、何よりも“楽しむ”素晴らしさを学び自分の力にする要素がありそうです。(“月刊みんなねっと”2012年9月号「楽しむことで元気になれる—フットサルを通して」)

～平成28年11月22日「平成28年度石川県障害者スポーツ普及協議会(第1回)」 於 県庁～

～平成29年 3月14日「平成28年度石川県障害者スポーツ普及協議会(第2回)」 於 県庁～

編集後記

慶応・明治・大正・昭和・平成。精神病者監護法・精神病院法・精神衛生法・精神保健法・精神保健福祉法。1867(慶応3)年、夏目漱石・正岡子規誕生。今年は「生誕150年」です。「日本の開化は外発的である」けれども、権利条約は「外圧」?? お二人の心と家族会のめざすところは同じです。(N)